

災害の反省と我が班の安全活動

新城営林署裏谷製品事業所 木村七夫

1. はじめに（災害発生の経緯等）

裏谷製品事業所は自署4セット、署間季節間配置換1セットにより、「きめた事、きめられた事は厳しく守り、チームワークとユーモアで明るい職場を築こう」を安全目標に掲げ、年間9,800㎡の素材生産を実行しております。

昭和57年には労働災害防止優良事業所として長官表彰を受けており、なかでも、我が班においては、昭和48年より9年間無災害を継続してきました。

ところが、昨年11月4日、我が班において、10年間無災害の記録を目の前にして、誠にショッキングな災害を起こしてしまい、無災害記録達成を楽しみにし、又、無災害を誇りにしてきただけに、全く残念でならず、無災害継続の難しさ、この災害原因の重大さを思い知らされました。

内容については、すでに御承知の事と思いますが、今一度振り返ってみますと、当日は作業段取上5名全員による伐倒作業であり、朝、TBMにおいて、経験の浅い者と熟練者を組み合わせ、急斜地の作業であり、足場の確保と接近作業を行わないよう、連携をしっかりとることなどを十分話し合い作業にかかりました。

ところが、午後の作業中、伐倒者の伐倒した立木の方向が狂い、枝払者がその立木の枝条に打たれるという災害が発生しました。

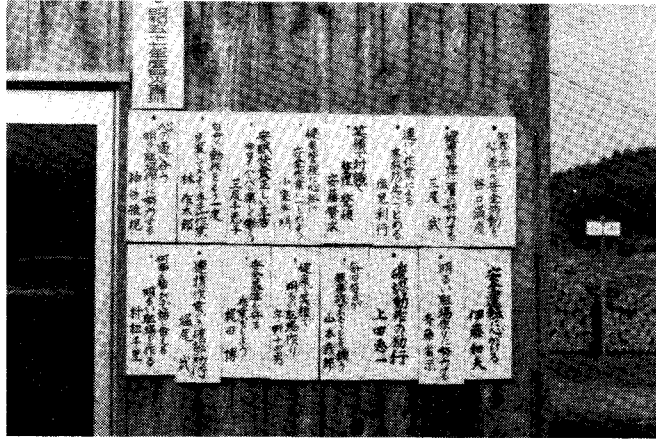
私達はこの災害が安全三悪に起因した重大なものであることを痛感し、（交通三悪に習った、①上下・近接作業、②合図確認の未実施、③退避距離の不適確のいずれか一部がたまたま完全でなかった）この様な災害は二度と起こしてはならない、おらが班から絶対に災害を起こさないと固く誓い合いました。

私は班長として、私達が今までに取り組んできた安全活動を振り返り、至らなかった点は至らなかった点として、深く反省するなかから、今までの取り組み内容について報告します。

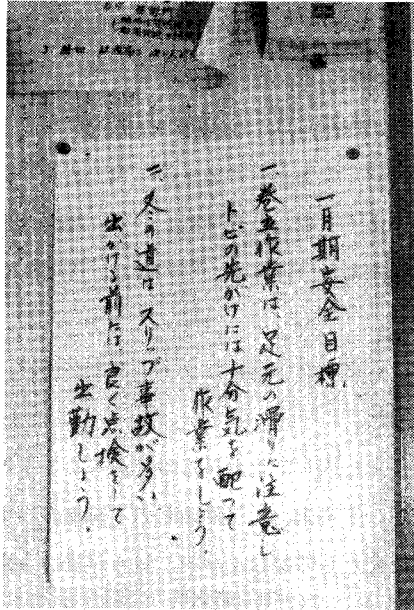
2. 今までの取り組み内容

(1) 指差確認運動の推進

基本動作の定着化と作業の連携を図るうえで、全員一丸となって推進してきましたが、一人ひとりが本当に身に着いていたのか大いに反省するところであり、今一度の確認、一呼吸の余裕、



(写真-14) 年間安全目標



(写真-15) 月間安全目標

もう一步の退避のポイントに確実な指差確認を行うよう、全員で誓い合い、落度があれば、お互いに注意し合い、更に実践して行きます。

(2) なごやかな職場環境作り

生産現場では連携プレーが安全作業のかなめであり、連携プレーはチームワークから生まれるものであります。

我が班の年齢構成は20才から57才と幅広いものであり、全員が気軽に話し合うことのできるムード作りに努め、お互いに気くばりを持って、職場の和を図っています。

(3) 4S（整理、整頓、清潔、清掃）

我が班では安全週番制を実施し、当番が安全の番人として、毎朝、一日の安全を願って安全旗を掲げることに始まり、TBMの内容、300事故通報等を安全日誌に記帳し、更に職場環境が常に良い状態にあるように努めるなど、皆んなが交代で責任をもって行っています。このことが全員の安全意識の向上につながっています。

(4) 作業配置の充実

TBMにおいて作業配置板を活用し、誰が、どこで、どんな作業を行っているか分かるよう休憩所に当日の作業配置を掲示していますが、更に一步進め、一か月の配置表を作り、毎日の人員配置結果を記入し、月末には作業内容と人員配置の分析を行い、翌月の安全かつ効率的な作業配置等に努めています。

(5) 月別安全目標の設定

毎月、当番者が交代に中心となり、その月の作業内容と季節に即した安全目標を決め、休憩所に掲示し、みんなで守っています。月末には反省を行い、守れなかった目標については原因を話し合い、翌月もう一度目標に掲げるなど対策をたてて実施しています。

(6) ミニバスの安全運行の励行

ミニバスによる災害は、一旦事故が起きれば多くの災害につながるものであり、カーブ、一般車進入の多い、当事業所部内の道路状況を考え、安全運転には細心の注意をはらっています。しかし、自分だけの注意では交通災害は完全に防げるものでなく、シートベルトの完全着用、対向車の注意喚起のため、カーブ等で必ずクラクションを鳴らすなど防衛運転を実践しています。

(7) 自主的健康管理の推進

計画的な作業を行うためには、全員が健康で安定して勤務しなければならないものであります。このことを全員で認識するなかから、休暇の使用状況、特に私傷病のチェックを行い、病休者の内容、原因の記帳及び血圧、脈はく数の測定結果を表に記録し、休憩所に掲示して、自分の健康管理と共にお互いの健康管理にも気を配り、病気の早期発見治療に心掛け、私傷病休暇の減少に努めるなど自主的健康管理の充実を図っています。

(8) 施設点検の充実

施設災害は重大災害に結びつくことが多いので、架線作業主任者の点検はもとより、通常の作業の中で、伐倒者あるいは荷掛者が現地に行く途中の施設箇所の点検を必ず行い、不安全箇所の早期発見と補修に努めています。又、物を大切にすることが安全作業に結びつくものとして、常日頃、機械器具類を大切に扱う習慣を身につけ、始業終業点検の充実を図っています。

(9) 安全意識の啓蒙

私達の安全衛生標語の入選作の掲示はもとより、更に、おもてに現われない標語を板に記入、休憩所周辺に掲示し安全意識の啓蒙を図っています。

3. 反省及び今後の方向

なぜ、どうして災害が起きてしまったのか反省として、

- (1) 今までの安全活動は上滑りになっていなかったか。
- (2) 指差確認が一人ひとりのものになっていなかったか。
- (3) TBMの内容が不十分ではなかったか。
- (4) 300 事故通報による対策はできていたのか等。

あげられる訳ですが、私達は、これらの反省のうえで、私達の使命である計画生産をいかに達成するかを考えると、作業員一人ひとりが災害は絶対起こしてはならない自覚のもとに、一日一日を大切に全力で安全作業を行う姿勢が最も重要であることを再確認しました。

これからは、再度無災害継続10年間に向い、経験の浅い者の多い我が班の現状を認識し、後輩の指導には安全に厳しく、職員相互の気配りから職場の和を図り、安全と生産の両輪を快適に転がして行きたいと考えています。